

太田市立史跡金山城跡ガイドンス施設 太田市金山地域交流センター

太田市金山町40-30 TEL.0276-25-1067

史跡金山城跡ガイドンス施設は、金山城跡の歴史を紹介する歴史学習の場、金山来訪者の憩いの場として、平成21年5月30日に開館しました。太田市金山地域交流センターが併設されており、両建物は建築家の隈研吾氏による設計で、外壁には金山城の石垣をイメージした石板が配置されています。



史跡金山城跡ガイドンス施設

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)

休館日：月曜日(休日の場合は翌日)

年末年始(12月29日～1月3日)

入館料：無料

ガイドンス施設から金山城跡までのアクセス

- ▶ 西城(金山モータープール)まで
・徒歩15分(ハイキング道・急坂)
・車 5分
- ▶ 実城(山頂)まで
・徒歩25分(ハイキング道・新田神社参道ルート)

金山の社寺

新田神社 一本丸跡に鎮座

明治8年(1875)金山山頂の金山城本丸跡に、地元有志の出願により創建。郷土が生んだ鎌倉幕府討幕の立役者、新田義貞を祀る。



金龍寺 金山城主の菩提寺

金山城大手の山麓にある曹洞宗寺院。寺号は大田山義貞院金龍寺。金山城主横瀬・由良氏の菩提寺で、本堂内には新田義貞木像、本堂裏手には、由良氏五輪塔及び新田義貞公供養塔(市重文)があります。金龍寺は天正18年(1590)由良氏の常陸国牛久移封とともに同地に移転しましたが、慶長年間、この地を領した館林藩主榊原氏により再興されました。



大光院(「吞龍様」) 子育て吞龍の名で親しまれる

義重山新田寺大光院。徳川家康が、その祖とした新田義重を追善するため、慶長18年(1613)に金山南麓に創建した浄土宗寺院。関東十八壇林の一つで、寺領300石。開山(初代住職)の吞龍に由来する子育て信仰で崇敬を集めており、上毛かるたでは「太田金山子育て吞龍」の読み札で、広く親しまれています。山門の吉祥門(市重文)は徳川家康の命名と伝えられています。



万葉集に「新田山(にひたやま)」と詠まれた、秀麗な山容を見せる金山



市営駐車場のご案内(無料)

- P-1 大光院駐車場(120台)／P-2 金龍寺南駐車場(30台)／P-3 金龍寺東駐車場(20台)
- P-4 東山公園親水広場入口駐車場(20台)／P-5 臨時駐車場(30台)
- P-6 ガイドンス駐車場(10台)／P-7 金山モータープール(36台)

カーナビ 検 索

・名称検索 「金山城」または「新田神社」(群馬県)

・電話番号検索 0276-25-1067

*金山城跡の電話はありませんので、山麓にある「金山城跡ガイドンス施設+金山地域交流センター」の電話番号で検索してください。

車でお越しの場合は金山ドライブウェイ終点の金山モータープール(P-7)が最寄の駐車場になります。



交通アクセス・所要時間(金山城跡ガイドンス施設まで)

- 鉄道：東武線「浅草駅」から「太田駅」(特急りょうもう号)1時間20分
東武線「太田駅」から徒歩50分・タクシー10分
- マイカー等：北関東道 太田桐生ICから10分・太田藪塚ICから30分
関越道 東松山ICから60分・花園ICから60分
東北道 館林ICから45分・佐野藤岡ICから50分

◆発行・お問い合わせ先◆

太田市教育委員会 文化財課

〒370-0495 群馬県太田市粕川町520 TEL.0276-20-7090

令和6年7月発行

史跡

金山城跡

◆金山城の歴史◆

金山城は、文明元年(1469)に新田一族の岩松家純によって築城され、下剋上によって城主となった由良氏の時代に全盛を迎えます。上杉謙信や武田勝頼などの有力戦国大名から10数回に及ぶ攻撃を受けますが、金山城は一度も落城することなく、その堅固さを誇りました。しかし、小田原北条氏の謀略に落ちて支配下となっていた天正18年(1590)、豊臣秀吉の北条氏征伐により金山城は廃城となりました。



金山城の歴史を見守ってきた樹齢800年の大ケヤキ(市天然記念物)

歴 史 年 表

1469年	岩松家純の命により金山城築城
1495年	明応の乱 佐野小太郎、金山城を攻める
1528年	享禄の変 横瀬氏が実権を握る
1565年	この頃、横瀬氏は由良氏に改姓
1573年	由良国繁、桐生城を攻略する
1574年	上杉謙信、新田を攻める
1580年	武田勝頼、新田・館林を攻める
1584年	由良国繁・長尾顕長、小田原城に軟禁される 国繁母の妙印尼は孫の新六郎(眞繁)を大将として金山城に籠城する 国繁・顕長の助命を条件に、小田原北条氏に降伏し金山城を開け渡す(桐生城に退く)
1585年	宇津木氏久ほか数名の在番が置かれる
1587年	清水太郎佐衛門正次、金山在番を命じられる
1590年	前田利家ら金山城を接收。金山城廃城 由良国繁、常陸(茨城)牛久に領地を得る
1613年	徳川家康、大光院を創建
1629年	献上松茸始まる
1688年	金山、将軍家御用林となる
1701年	元禄太田金山絵図が作成される
1875年	新田神社、金山に創建される
1934年	金山城跡が国史跡に指定される
2000年	史跡金山城跡第1期整備終了
2002年	史跡追加指定(18.3ha→97.8ha)
2009年	史跡金山城跡ガイドンス施設開館

日本100名城(公益財団法人日本城郭協会選定)

日本の歴史公園100選：西山公園(国土交通省選定)

関東の富士見百景(国土交通省関東地方整備局選定)



1 西矢倉台西堀切：堀切の底を石敷きの通路にしています。



2 栈道：山の斜面に丸太で組んだ通路があったと思われます。（現在はありません）



3 西矢倉台通路：西矢倉台と馬場曲輪をつなぐ内部通路です。



4 物見台下堀切：岩盤を人工的に削って造った堀切です。



5 物見台下虎口：通路の正面に石積みがあり、その先を見せないような工夫がされています。



6 塹堀：塹堀の脇には石垣があり、堀底には通路がありました。



7 馬場下通路：通路の先を行き止まりにし、敵を惑わせます。

★眺望抜群のポイント
新田神社境内からは、東側の展望が開け、渡良瀬川や足利・佐野方面が見渡せます。



8 物見台：金山城の周囲が見渡せるため、敵の動きを見張ります。



9 馬場曲輪：大手虎口を守る兵が待機していたと思われる曲輪。（現在あずまやは平面遺構表示に変更されています）



10 大堀切：実城の手前にある、金山城の中で一番大きな堀切です。堀止の石積みもお見逃しなく。

史跡金山城跡主要部

★眺望抜群のポイント

晴れた日には、日光男体山・足尾山地・上毛三山（赤城山・榛名山・妙義山）・浅間山・八ヶ岳（一部）・秩父山地、そして関東平野最南部などを見渡すことができます。

★本丸裏の残存石垣

新田神社の階段下から西に入り、本丸と二ノ丸の間の堀切を抜けると、残存石垣があります。また、本丸を取り巻く腰曲輪を時計回りに進むと元の階段下（御台所曲輪）に戻れます。

★見学ルート

堀切や石垣などが連続して現れる遺構整備を実施した尾根道のルートです。石畳や石段、露出した岩盤があるので足元に注意してお進みください。



11 月ノ池：大手道を上り切った、大手虎口脇にあり、訪れる者に水の豊かさを見せつけます。



→ 園路通路（★見学ルート）
→ 管理用道路：段差のない舗装路です。車（許可車）が通ることがありますので、ご注意ください。

日本100名城スタンプ設置場所（南曲輪休憩所）
○開場 8：30～17：00（6月～9月は18：00まで）
○無休
＊11～12月は日没が16：30前後となるため、探訪時間にはご注意ください。

★眺望抜群のポイント

秋～冬の晴れた日には、広大な関東平野の先に、スカイツリー、高層ビル群を望むことができます。また、ここは関東の富士見100景に選ばれています。

■所要時間 駐車場⇒案内板まで2分⇒**3**物見台まで約12分⇒**12**大手虎口まで約15分⇒新田神社（実城）まで約20分



12 大手虎口：実城へ向かうための通路を厳重に守っていた一大防御拠点。高く積まれた石垣は、敵を威圧し、城の威厳を示します。



13 石垣改修の露出展示：5回も石垣の改修工事を行っている跡が見られます。



14 石敷き遺構展示施設：石敷きされた当時のままの建物の基礎を展示しています。武器庫兼兵の詰め所だったと思われます。



15 日ノ池：戦いで勝利や雨乞いなどの儀式が行われたと思われる神聖な池。



16 見附出丸：土塁の上には柵がめぐっていました。



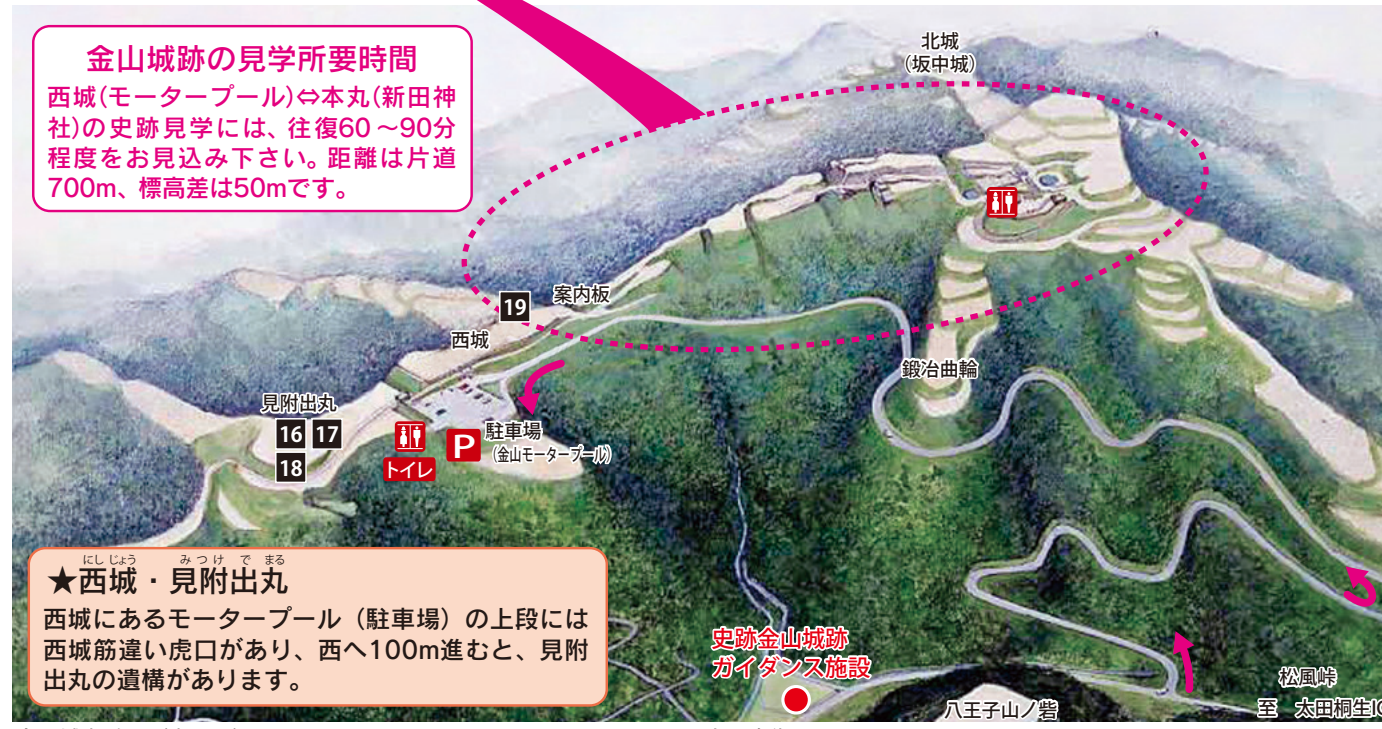
17 見附出丸：南虎口の土塁

金山城跡の見学所要時間

西城（モータープール）⇄本丸（新田神社）の史跡見学には、往復60～90分程度をお見込み下さい。距離は片道700m、標高差は50mです。

★西城・見附出丸

西城にあるモータープール（駐車場）の上段には西城筋違い虎口があり、西へ100m進むと、見附出丸の遺構があります。



金山城鳥瞰図（南から）

至 太田市街



18 見附出丸から太田の街を望めます。



19 西城：園路を左に折れば、ぐんまこどもの国へ。真っすぐ進めば、実城、新田神社へ。